

坂本恵一

こころの小山田二郎



書かれざる一章

**小山田二郎**  
の空白の時代  
(1947年~1950年)

坂本 恵一



坂本恵一さんの直筆原稿から

書かれざる一章  
**小山田二郎**  
 の空白の時代  
 (1947年~1950年)

●はじめに

1991年7月26日——戦後の洋画界に  
 異彩を放った小山田二郎は、生涯を閉じた。

小山田二郎死して10餘年の月日が過ぎた  
 今日、何故だろう不思議に小山田二郎がよみ  
 がえってくるのだ。

「描く意欲がなくなつたら、おしまいだよ  
 。それが一番怖いねえ……」と、うとぶい  
 ていた小山田二郎。

「ぼくはねえ。静物とかモデルはいらない  
 よ。イメージの中にあるからねえ……」  
 とも語っていたと思う。

小山田二郎と出会つたのは、未だ焼跡の残



坂本恵一さんの直筆原稿から

つている戦後の時代で私が18才の頃である。  
 わずか2~3年の時間(1947年~19  
 50年)にすぎず、まして50数年も前のこ  
 となのに、小山田二郎が鮮烈に浮び上つてく  
 るのは、それが私の生涯で大切な時だったか  
 らだと思う。

私がここに書くことは、小山田二  
 郎の魅力的な人間性であり、エピソードでも  
 ある。龍は片鱗を描いても龍である。

小山田二郎という天才に出会えたこと、  
 青春時代に、この芸術家にふれ、語り、影響  
 を受けることが出来たことは幸せであった。  
 今や、小山田二郎を知る人も少なくなつた  
 と思う。私は現在74才であり、小山田二  
 郎の死の年齢に近づいている。

小山田二郎への敬愛の想いと、その土まぶ  
 まな伝説について語り、書きとめておきたい。

「生きているとき、ゴツホにやさしく  
 してやらなかつた。オランダ人を憎む——」

この言葉は作家三好十郎の言葉である。



坂本恵一さんの直筆原稿から

劇団民芸の「炎の人」の舞台の幕あけに、  
この言葉が朗読される。

三好十郎の強い主観にふうぬかれた言葉だが、  
すべての天戈にあてはまる言葉ではない  
のか。 レジブラント、モリリアニ、... その  
他多くの天戈が生きている間は世の人はやさ  
しくはなかったのだ。-----。

小山田二郎に対してやさしかったか。

その頃、

小山田二郎は生活者としては貪しく、ゆま  
ながら絵を描いていた。

私は多くの人達が小山田二郎を尊敬し、  
彼のまわりに集っていた姿を見ている。

そして小山田二郎の芸術家としての仕事を  
色々な形で支援していたことも知っている。

けれど、

小山田二郎には甘えの姿勢はなく、いとも  
弧光を放ち、それらの人間関係とは別の世界  
で小山田芸術を南花させたように思えてなら  
ない。

たしか小山田二郎の「花火」という作品に  
対する美術評論家の批評に次のような言葉が



ある。

「小山田二郎の絵には、人間の持つている  
ギリギリのやさしきがある——」

ギリギリのやさしきとは何だろう。

あの小山田二郎の水彩画のように、水彩絵  
の具のにじみや微妙なグラデーションの間か  
ら鮮烈に燐光を放つ「鳥世」たち。

人間世界の根源的なところまでぐめく不條理<sup>なもの</sup>、

意識の地下層で屈折し、うつ屈し、変貌  
するもの、それはある時「盲人書」であり

「野変人」であり、小山田二郎はそれらを透視  
する眼をもっている。時に「いやな奴」に

なつて画面に侮蔑と調刺の緊張感をもたせて  
いる。小山田二郎の苦笑が見えるようであ

る。それらを含めて、深層心理の中へく  
くりぬけてゆくやさしき——それが

小山田二郎のスタイルリズムの彼方には  
あると思う。

● 小山田二郎が唱う

スヨスラの子守唄



小山田二郎の「ジヨスラの子守唄」を  
聞いたことがあるか。

厚い唇から美しいバイブレーションで流れてくる低音のリズム

「むごき士だめ身にあぶりて

三女と眠る のるわれの夜……」

その歌詞と小山田二郎の魅力的な声が共鳴してひびきわたった。

私達、大日本印刷の若者は、酒と少々の食糧を工面して、高円寺の小山田二郎のアパートに押しかけた。

六畳位のせまい部屋には30号位の「青年キリスト」という絵がたてかけてあった。

小山田二郎の画集にはなにか攻めたセピアっぽい絵があった。本棚には文庫本がぎっしりとつまっていた。

小山田二郎の「ジヨスラの子守唄」は暗い韻律の中に、かすかな希望のようなもの、祈りのような荘厳さがあった。

それが、戦後の飢えと貧乏と、希望のそとね



若者の心にしみとおつていつたように思う。

やがて私達は小山田=郎に「ワルソヤワの  
労働歌」をリクエストした。

「昇塵の雲 光りを覆い

廠の嵐は吹まおすべ

ひさまずすすめわれうの友よ…」

という歌詞のロシア革命の中の労働歌は、  
厳肅なムードで迫ってきた。

やがて私達で合唱し、かわりに「インター  
ナショナルの歌」を唱って別れた。

私達は「革命」という言葉を、政治運動だ  
けとは違ふ、芸術、文学、哲学的にとらえ、  
人間の生き方として身に付けていつたと思ふ。

その中心軸には、尊敬する小山田=郎の影  
響力が強くあつた。

やがて小山田=郎を囲む若者達は絵画の世  
界へ、労働運動へと育つていつたのである。

● 小山田=郎と若者たち

(小山田=郎の影響)



坂本恵一さんの直筆原稿から  
(全22ページです)

坂本恵一さんが愛し続けた雑誌『プリンターズサークル』(JAGAT)  
「気ままな印刷人日記」No160へつながっていきます





優れた芸術家との出会いが  
青春の生き方を決めた！  
飢えて、やせてはいたが、幸せな時代

小山田二郎の話をしましょう。

そのことは、私の青春時代を語ることにあります。デジタル時代の今日、青年諸君は、優れた上司や先輩、友人たちに恵まれているかどうか？ そうした思いが戦後59周年の今日、私の心の中にあります。

コンピュータの世界に「ウィザード」という言葉があり、「コンピュータのソフト、ハードに強く、そのテクニックは魔術師のような人」を尊敬して言います。リーダーとして風格もある人のことでしょう。そうしたウィザードのような人材が職場に多くいました。アナログ時代で物資欠乏の敗戦直後ですから、製版技術は、ガラス板を素材とした湿版時代でした。

デジタル時代の今日から見れば、スキャナもない、モニタもない、Macもない……原始的設備の時代、ほとんどが手作りに似た製版時代です。しかし、優れた人材には恵まれていました。

私の勤めたD印刷の製版には、レタッチ室、画室という部門があって、日本画、洋画の画家たちが多く職場にいました。

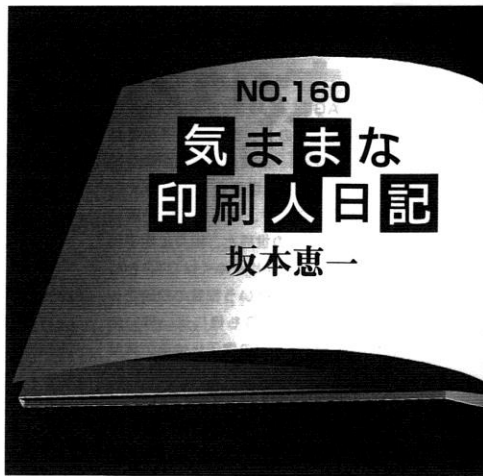
その中で洋画家小山田二郎は独特の風貌と、幻想の画家として異彩を放っていたと言えるでしょう。私は「画工養成部」というレタッチ見習いの職場に配属されました。隣接する職場に画室があったのです。18歳のころです。

小山田氏から直接、製版技術を教わったことはありません。けれど小山田二郎の周辺には、彼の人望とインテリジェンスを慕って多くの若者たちが集まっていました。私がセザンヌ、ゴッホ、ユトリロ、ルオーなどの西欧の画家について知ったのもこのころです。



小山田二郎と若者たち  
自由美術展への搬入手伝い  
キャンバスを作り額も作る(手作り)

そのころ小山田二郎は、自由美術に所属し、作品を発表しており、美術評論家針生一郎氏が小山田氏を高く評価していました。



NO.160  
**気ままな  
印刷人日記**  
坂本恵一

私たちは貧乏でしたが、志は大きく、偉大なものにあこがれていました。文学では戦後派の台頭があり、政治では戦争責任の追及、軍国主義時代は崩壊し、新しい時代の風、新しい価値観の自覚を肌で感じていたのです。

私たちは、小山田二郎の周辺に集まり、キャンバス（画布）も手に入らない時代ですから、テントの布地をキャンバスに代用し、額縁は廃材を削り、ペンキを塗って作りました。レタッチマンの先輩の宮村実氏は器用にそれらを作り、支援したのです。今そのテント布に描かれた傑作「鳥女」は、そのころの知人宅にあります。

そうして、偉大な天才画家である小山田二郎とともにあることを私たちは誇りに思っていました（そのころ小山田二郎はまだ有名ではなく、国際ビエンナーレ展に日本選抜で出展したのは、これより後のことです）。

小山田二郎の若者たちへの影響力は次の点にあったと思います。

- ①偉大な芸術家のもつ感性と芸術的教養力（読書力）
- ②どの若者にも対等で、全人格的に接する人間性（人間的魅力）
- ③独特の庶民的ユーモアと風刺精神
- ④未来に対する展望と現実への抵抗精神
- ⑤芸術家の尊厳、非妥協的精神

それらが肉体的にハングリーであり、精神的にも戦後の荒廃と空白の中にいた若者たちの心





優れた芸術家との出会いが  
青春の生き方を決めた！  
飢えて、やせてはいたが、幸せな時代

小山田二郎の話をしましょう。

そのことは、私の青春時代を語ることにあります。デジタル時代の今日、青年諸君は、優れた上司や先輩、友人たちに恵まれているかどうか？ そうした思いが戦後59周年の今日、私の心の中にあります。

コンピュータの世界に「ウィザード」という言葉があり、「コンピュータのソフト、ハードに強く、そのテクニックは魔術師のような人」を尊敬して言います。リーダーとして風格もある人のことでしょうか。そうしたウィザードのような人材が職場に多くいました。アナログ時代で物資欠乏の敗戦直後ですから、製版技術は、ガラス板を素材とした湿版時代でした。

デジタル時代の今日から見れば、スキャナもない、モニタもない、Macもない……原始的設備の時代、ほとんどが手作りに似た製版時代です。

しかし、優れた人材には恵まれていました。

私の勤めたD印刷の製版には、レタッチ室、画室という部門があって、日本画、洋画の画家たちが多く職場にいました。

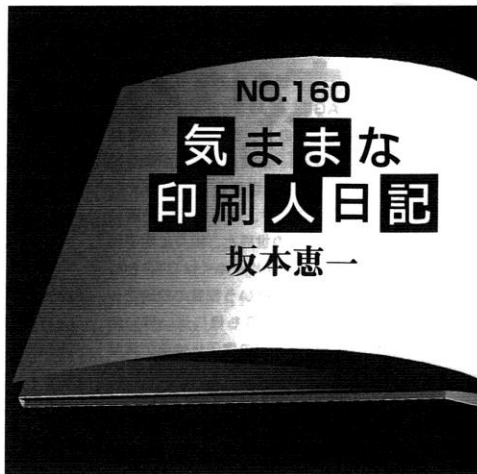
その中で洋画家小山田二郎は独特の風貌と、幻想の画家として異彩を放っていたと言えるでしょう。私は「画工養成部」というレタッチ見習いの職場に配属されました。隣接する職場に画室があったのです。18歳のころです。

小山田氏から直接、製版技術を教わったことはありません。けれど小山田二郎の周辺には、彼の人望とインテリジェンスを慕って多くの若者たちが集まっていました。私がセザンヌ、ゴッホ、ユトリロ、ルオーなどの西欧の画家について知ったのもこのころです。



小山田二郎と若者たち  
自由美術展への搬入手伝い  
キャンパスを作り額も作る(手作り)

そのころ小山田二郎は、自由美術に所属し、作品を発表しており、美術評論家針生一郎氏が小山田氏を高く評価していました。



私たちは貧乏でしたが、志は大きく、偉大なものにあこがれていました。文学では戦後派の台頭があり、政治では戦争責任の追及、軍国主義時代は崩壊し、新しい時代の風、新しい価値観の自覚を肌で感じていたのです。

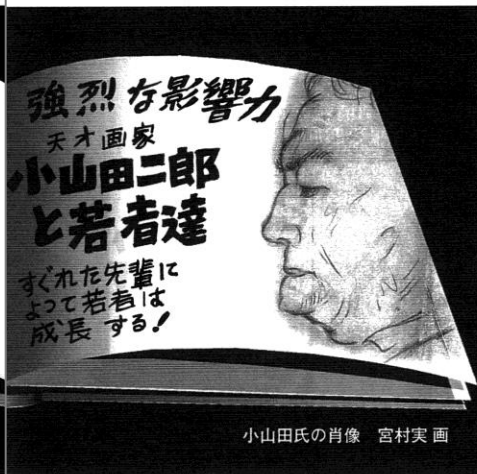
私たちは、小山田二郎の周辺に集まり、キャンパス(画布)も手に入らない時代ですから、テントの布地をキャンパスに代用し、額縁は魔材を削り、ペンキを塗って作りました。レタッチマンの先輩の宮村氏は器用にそれらを作り、支援したのです。今そのテント布に描かれた傑作「鳥女」は、そのころの知人宅にあります。

そうして、偉大な天才画家である小山田二郎とともにあることを私たちは誇りに思っていました(そのころ小山田二郎はまだ有名ではなく、国際ビエンナーレ展に日本選抜で出展したのは、これより後のことです)。

小山田二郎の若者たちへの影響力は次の点にあったと思います。

- ①偉大な芸術家のもつ感性と芸術的教養力(読書力)
- ②どの若者にも対等で、全人格的に接する人間性(人間的魅力)
- ③独特の庶民的ユーモアと風刺精神
- ④未来に対する展望と現実への抵抗精神
- ⑤芸術家の尊厳、非妥協的精神

それらが肉体的にハングリーであり、精神的にも戦後の荒廃と空白の中にいた若者たちの心



小山田氏の肖像 宮村実画

に、飢えを満たすように浸透していったのです。

小山田二郎が「エスポワール(希望)」という言葉を使い絵画用語で「デフォルマション」「ムーブマン」などの言葉を使って話す言葉が新鮮に響きました。



小山田二郎の横顔  
職場での小山田二郎  
昼休みの習作

小山田二郎は昼休み、写植文字の使用済み台紙の裏面を利用して、習作をしていました。

それは独特で、印刷インキの空き缶のふたに、キ、アカ、アイ、スミのインキを絵の具のように出しておきます。それをベンゾールで溶かして、水彩絵の具の



ような効果で描いていました。台紙の紙の光沢とベンゾールで溶かしたインキのトーンが習作の画面に独特の美しいグラデーションを作りました。そのころの作品は、「猫女シリーズ」で小山田二郎の幻想の画家としてのイメージの出発点となったものでしょう。

小山田二郎のまねをして私も刷版合紙に使っているボール紙(A全版くらいの大きさ)に印刷インキで油彩画風にニコライ堂の絵を描きました。

パレットナイフでインキを盛り上げて描くの

ですが、印刷インキは表面は乾きますが、中まで乾かずやがてインキが厚塗りの部分から垂れ下がるように崩れてきたのです。

その効果が画面全体に幻想的なイメージを作りました。小山田二郎は、その絵を激賞してくれて、「自由美術に紹介するから出したらどうか」とまで言ってくれました。

私は戦時中の軍国少年から、敗戦、飢えと貧乏の中で、ニヒルな考えに走っていたころなので、小山田二郎のこの評価と励ましは、大きな自信回復のきっかけになりました。

小山田二郎に読むように勧められた本は、「ボードレール詩集」、「永遠なる序章」椎名麟三著……などが強く印象に残っています。



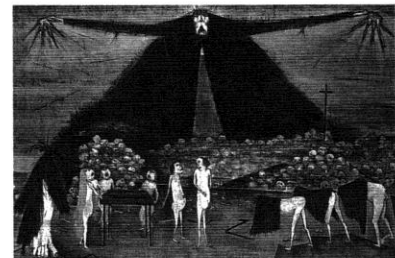
尊敬する人がいなくては  
若者は成長しない  
デジタル時代の人材を育てる方法

若い時の出会いは、その人の人生を決定的にします。1冊の本、1枚の絵画、音楽、それらとの出会いも大切ですが、私は優れた人間との出会いが決定的になると思います。

小山田二郎のシュールレアリスムの世界、世俗に妥協せぬ孤高の精神、反戦、反体制のイデオロギー……それらは私たちに強く影響しました。

デジタルに強いことも大切、けれどデジタル+αの人間の魅力が若者を引き付けるために重要だと思います。優れたデジタルオペレータは優れた先輩、リーダーの魅力的な人間性の影響を受けて育つと信じるからであります。

(さかもと・けいいち)



「愛」 1956年 小山田二郎 愛知県美術館蔵